

地域活性化モニュメント 除幕式

日時 平成28年11月1日(火) 午前10時開式

場所 山之口サービスエリア上り線 売店東側

主催 都城市 山之口総合支所 地域振興課

式次第

program

1 開 式

2 主催者挨拶

都城市長 池田 宜永

3 来賓挨拶

都城市議会議長 荒神 稔 様
西日本高速道路(株) 九州支社 宮崎高速道路事務所 所長
久保 幸治 様

4 除幕者紹介

5 除 幕

6 しかけ時計制作者挨拶

(株)ヤスダモデル 代表取締役 安田 清之 様

7 万歳三唱

山之口賑わい創出民間協議会 会長 山元 浩之 様

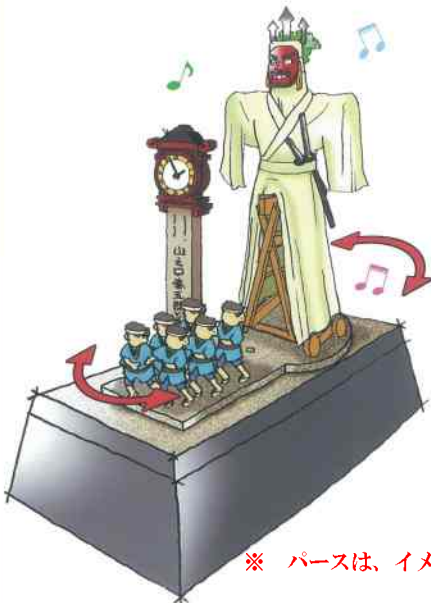
8 閉 式

※ 閉式後、『弥五郎どん祭り しかけ時計』の前で記念撮影を行います。
その後、山之口サービスエリア下り線へ移動し、『人形浄瑠璃 しかけ時計』
の試運転と記念撮影を行います。

弥五郎どん祭り しかけ時計

宮崎自動車道
山之口SA上り線

- 高さ 3.7m
- 構造 FRP（ガラスマット3層構造）＋ウレタン塗装



※ パースは、イメージです。

- 作動時間 8時から18時まで（毎正時に約3分）
- コンセプト 弥五郎どん音頭に合せて、弥五郎どんと引き手がゆっくり浜殿下り

しかけ時計は、的野正八幡宮の例大祭『山之口弥五郎どん祭り』の主役である「弥五郎どん」と「引き手（子どもたち）」を表現しています。

毎年、11月3日に執り行われる的野正八幡宮の例大祭『山之口弥五郎どん祭り』。

養老4年（720年）、朝廷軍は、「隼人の乱」を鎮圧しましたが、この戦いで多くの死傷者が出ました。崇りを恐れた朝廷は、隼人の慰霊のために全国規模の「放生会」を行い、これが祭りの始まりとされています。この放生会の先払い（先導役）となったのが、隼人族首長「弥五郎どん」です。

また、的野正八幡宮の神様（応神天皇）が、同八幡宮分社の池之尾神社に祀られている神功皇后（応神天皇の母親）と年に1回面会し、一緒に浦安の舞や神楽舞などを終日楽しむという伝説に由来しています。

祭りの見どころは、子どもたちとともに浜殿下りする「弥五郎どん」です。富吉小学校子ども芸能保存会の児童が四輪の台車にまたがった「弥五郎どん」を引いて下ります。総勢120人にも上る長蛇の行列は、盛大な中にも古式豊かな一大絵巻で、素朴さに特徴があり、毎年県内外から大勢の参観人で賑わいます。

人形浄瑠璃 しかけ時計

宮崎自動車道
山之口SA下り線

- 高さ 2.4m
- 構造 FRP（ガラスマット3層構造）＋ウレタン塗装



※ パースは、イメージです。

- 作動時間 8時から18時まで（毎正時に約3分）
- コンセプト 扉が開くと、太夫の声と三味線の音に合わせて人形が熱演

しかけ時計は、6月の定期公演で上演されている「出世景清 四段 牢舎の段（ずやんば）」を表現しています。

人形浄瑠璃は、語り、三味線、人形の操りが一体となり、物語を演ずる人形芝居。

山之口麓地域に伝わる『文弥節人形浄瑠璃』は、1673年～1703年頃、大阪道頓堀の伊東出羽掾座の太夫として活躍した「岡本文弥」が語る「泣き節」、「愁い節」とも呼ばれる哀愁を帯びた独特の節廻しで演じられます。

山之口麓地域では、「島津家参勤交代の折、随行了た郷土たちが大阪、京で流行していた人形浄瑠璃を習い覚え、藩主に道中の徒然を慰めるために操った。」という口伝が残されています。その後、地域の古老たちが伝承し、幾多の変遷を経て、現在も保存会により継承され、麓小学校の児童を対象に人形サークルも行い、後継者育成に取り組んでいます。

平成7年12月26日には、この伝統芸能が貴重な文化遺産であると高く評価され、国の「重要無形民俗文化財」に指定されました。

現在、人形浄瑠璃資料館では、保存会による年4回（3月・6月・9月・11月の第3日曜日）の定期公演が開催されています。

観光案内板

宮崎自動車道
山之口SA上り線・下り線

- QRコードにより、観光情報を入手可能
- 高さ 1.2m 縦×横=92.3cm×122.3cm
- 表面 電子線硬化型樹脂コーティング

都城

幸せ上々、みやこのじょう
日本一内河川都市、とっておきの自然と伝統